

拡大と縮小

MAGNIFIED VIEW



映像工夫館・テーマIV「拡大と縮小」
1996年9月28日(土)～1997年3月30日(日)

津田佳紀展
1996年9月28日(土)～11月24日(日)

ジョナス・メカス展／静止した映画フィルム
前期 1996年11月28日(木)～1997年2月2日(日)
後期 1997年2月6日(木)～3月30日(日)



東京都写真美術館

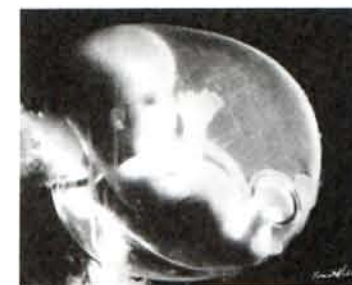
〒153 東京都目黒区三田1-13-3 Tel. 03-3280-0031
F-13-3 Mita Meguro-ku, Tokyo 153

映像工夫館・テーマIV「拡大と縮小」

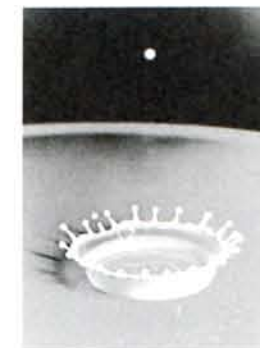
人は映像の長い歴史を通して、見えるものを記録し、見えないものは見えるようにしてきました。では「見える」というのは、また「見る」ということは、どういうことなのでしょう。

望遠鏡で遠くのを引き寄せて見たり、顕微鏡で小さなものを拡大して見ることは、昔から知られていました。写真などの記録媒体ができてからは、高速撮影やフラッシュなども使われるようになり、可視光以外の放射線(電磁波)、超音波なども利用され、見えないものを見るようにする工夫はさらに広がりました。大きさ、距離、時間、光などの基準を変えることで、人は映像による知覚の拡大と縮小を可能にできたのです。

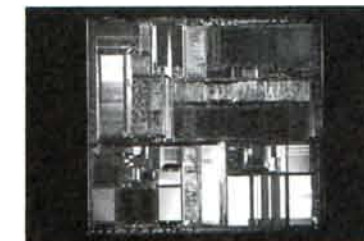
この展覧会では、そのような見えないものを見ることの工夫と、見ることと見えることのしくみを探っていきます。



レナート・ニルソン：
胎児、3ヶ月目、長さ8センチメートル、
重さ25グラム



ハロルド・エジャートン：
ミルクの中に落としたクラウンベリ
ージュース 1960年



集積回路(ペンティアムプロ200/写真提供・
株式会社インテルジャパン) 1996年



ニュートンとカンパニー：
マジック・ランタン・
マイクロスコープ

津田佳紀展

津田佳紀は、コンピュータやビデオなどのテクノロジーを多用して、社会的アイコンと関係性を材料に、意味を転倒しすりかえることで社会構造をアイロニカルに浮き上がらせた作品によって知られています。今回の作品は、特に内部、外部と境界を意識して構想されました。ではこの境界は、内部、外部どちらに属しているのでしょうか。社会のシステムにあてはめて考えてみるのも興味深いものがあります。もしかしたらこの境界に相当するのは、そのどちらにも属することのないものかもしれないのです。

ジョナス・メカス展「静止した映画フィルム」

ワークショップ「拡大と縮小」

10月中

会場 写真美術館地下1階学習室(無料・自由参加)

ビデオ・ワークショップ

12月中

講師 小口詩子

会場 写真美術館地下1階学習室(無料・自由参加)

毎月第3金曜日は午後2時より当館学芸員による
フロア・レクチャーが行なわれます

ギャラリー・オリエンテーリングなども予定されており
くわしくは東京都写真美術館ニュースをご覧ください



ジョナス・メカス：キョーコ、
ヨーコ・オノの娘、彼女の7歳
の誕生日 1969年頃
『時を数えて、砂漠に立つ』より
チバクローム・プリント



津田佳紀：(共有)される視線 1996年

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合はその翌日)
開館時間 10:00～18:00(木・金曜日は20:00まで/入館は閉館の30分前まで)
観覧料 一般・大学生500(400)円/小・中・高校生250(200)円
()内は20名以上の団体料金/3階常設展示室の観覧料を含む
65歳以上の方、および障害のある方とその介護者1名は無料になり
ます(証明できるものをご持参ください)

主催 東京都写真美術館
展覧会のお問い合わせは、ハローダイヤル03-3272-8600へ



交通機関=JR恵比寿駅東口より徒歩7分(恵比寿ガーデンプレイス内)お車でのご来館はご遠慮ください

東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography
〒153 東京都目黒区三田1-13-3 Tel.03-3280-0031

MAGNIFIED VIEW

拡大と縮小